

「ずっと待ってるで」途切れなかった活動

河牧剛

高浜町にある和田地区子ども会では、毎年年末に子供たちが一軒一軒足を運び、高浜町の高齢、ひとり親、障がいのある方のために募金活動をしています。その歴史は30年以上に亘ります。

地域の子供たちが呼ぶ「おじいちゃん、おばあちゃん」「おっちゃん、おばちゃん」は、年末に子供たちが来るのを楽しみに待っていてくれます。

募金していただいているその硬貨とお札をみれば、苦勞して貯めていただいているのがわかります。

昨年は新型コロナウイルスにより、この子供たちの活動は中止となりました。ずっと続いていたものが止まってしまったと思いました。

しかし、地域のみなさんから「昨年は子供たちが来てくれなかったけど、いつ来てくれてもいいように、ずっと貯めとるで」という話をお聞きし、和田地区子ども会の歴史は決して途切れずに続いていることがわかり安心しました。

何よりも「いつまでも元気で過ごしていただき

いことと、今年こそ子供たちに会えるように」と願っています。



コロナ禍を乗り越えた未来の君たちへ

宮崎支部
子ども会育成連絡協議会

わが地区の子ども会では、令和2年度、例年のよ
うな行事がまったくできませんでした。

小中学校でも学校が休校になったり、修学旅行が
中止になったりして、子ども達の感染防止が最優先
される中、地域での活動がそのリスクを拡大させる
わけにはいかないと、子ども会活動も自粛するこ
とになったのです。

こんな状況はいつまでも続かないだろう、今しば
らく我慢すれば、感染拡大がおさまり、感染症の
特效薬もできるだろうという楽観的な予測は、みご
とに裏切られました。

先の見えない戦いに覚悟を決めて、そうして一年が
過ぎようとしていました。

わが地区は、小学校・中学校ともに1校ずつで、
9年間同じ顔ぶれで過ごします。特に中学3年生は、
この仲間と過ごす最後の1年で、今しかつけれない
たくさんの思い出ができるはずでした。しかし、コロ
ナ禍のために、「我慢」と「あきらめ」ばかりの日々、

そして、そんな中での高校受験、みんなよく乗り越
えたと思います。

子ども会としてできるせめてものこととして思いつ
いたのが、今の思いを未来に託す「3年後の自分に
送る未来レター」。今が大変な分だけ、今感じた思
いはきっと未来で役に立つはずと、「コロナ禍で感じ
たこと」「コロナ禍が終息したらしたいこと」をみん
なに書いてもらいました。

3年後、みんなは18歳、成人となる年齢です。こ
の手紙がコロナ禍を乗り越えた未来と大人としての一
歩を踏み出す君たちに届きますように。

3年後の自分へ送る未来レター
宮崎地区子ども会
未来レター
3年後の自分へ送る未来レター
宮崎地区子ども会
未来レター
3年後の自分へ送る未来レター
宮崎地区子ども会
未来レター

ふれあい花壇

地区会館で、会食、ゲーム、体操等をする「ふれあいサロン」は、コロナ禍で昨年春から休止のまま。だったらせめて花を咲かそう！会館横に花壇を作ろう！となり、いつもサロンに参加の方々が、その道ノプロの方々が花苗を持ち寄り植え、「ふれあい花壇」と立て札もOK。

花は、心のビタミン剤。私達サロン運営ボランティアも、できる範囲で草取り、肥料やり、花は黄水仙、紫陽花、グラジオラスと咲き、今は真っ赤な鶏頭とコスモスが浜風に揺れています。

一人暮らしの方、家族がいても日中一人暮らしの方々を招いての「ふれあいサロン」、今はいつ再開できるのかわかりません。それでも会館横の小さな花壇、花々を見て、笑ってくれたら幸いです。

越前町高佐区「ふれあいサロン和しわ会」



会えなくてもできることにつながり続ける

津田真希

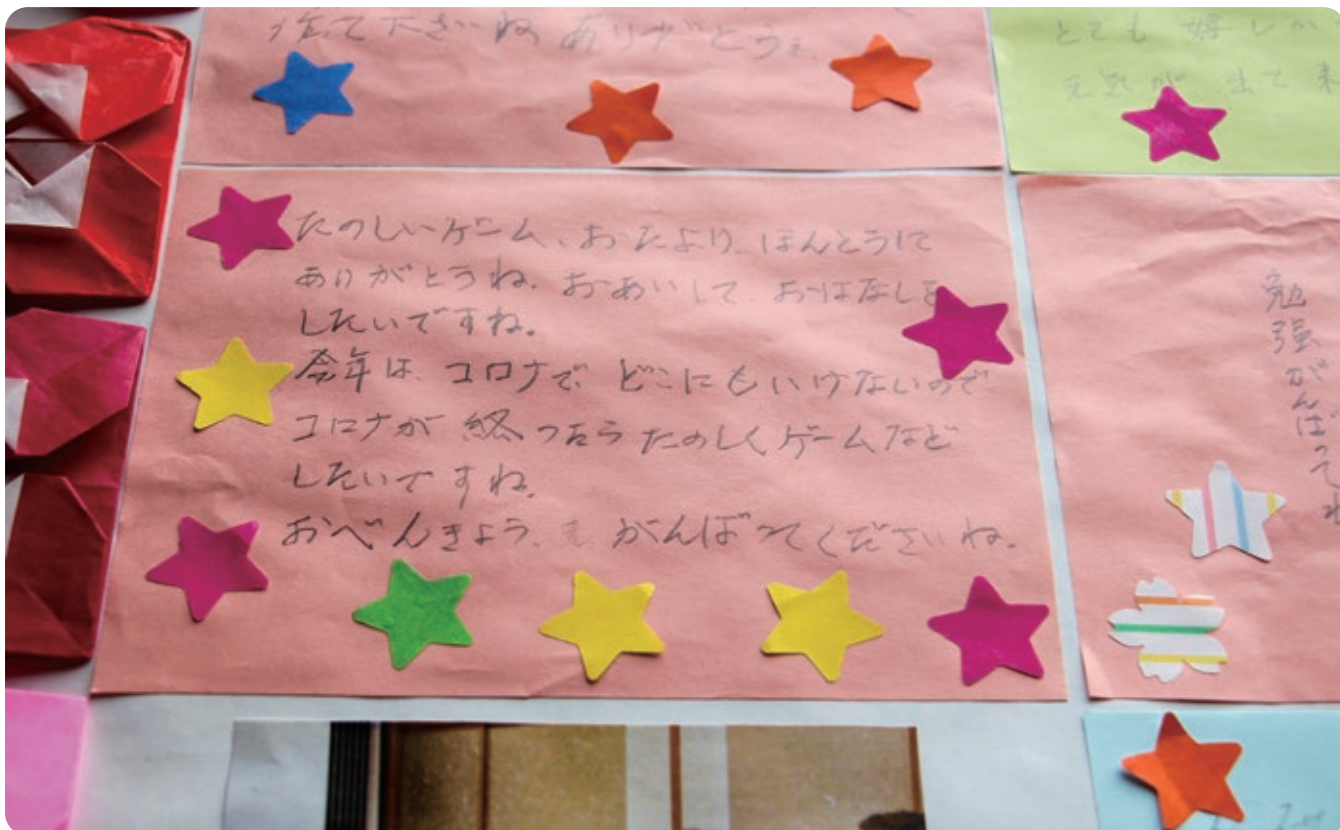
毎年、金津小学校の5年生が福祉教育の一環として、老人福祉センターの利用者と交流会を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により交流することが難しく、見送ることになってしまいました。

そこで、児童が今まで築いてきたつながりが途切れてしまうのは残念、コロナ禍でも利用者になしでも楽しんでもらえたらということで、レクリエーションの道具やキーホルダー等を手作りし、温かいメッセージとともにセンターへ届けてくれました。

受け取った利用者は「子どもらに会えんのはさみしいけど、いいプレゼントになったわ、嬉しい」「ゲームをよく考えついたので、すごい」と笑みをこぼしていました。そしてせっかくプレゼントしてくれたからということで、児童あてに利用者からお礼の手紙を貼った壁かざりを作成し小学校に贈りました。

コロナ禍で、直接ふれあうことはできない状況となってしまうしましたが、会えない中でもメッセージや

プレゼントを通じて交流を深め、つながり続けることができました。



「エール」で咲かせよう！地域の桜

社会福祉法人足羽福祉会 愛全園

当園近くの東新保地区のえちぜん鉄道が走る桜並木は、毎年きれいに咲き誇り、地域の方々から大事にされている名所のひとつです。

今年は、感染対策にて花見をしながらゆっくり話はできませんでした。それでもこの桜をみんなに見てもらいたいという地域の方々の想いを受け、コロナ禍で募る想いや、今の想いをつづつたメッセージを桜の花びらにかたどったカードに記入してもらい募集することにしました。お寄せいただいたメッセージは、「エール」で咲かせよう！地域の桜と題して、1本の桜の木の絵に貼り付けて、愛全園の正面玄関に飾りました。大きな桜の木が、想いであふれたメッセージで満開になりました。

コロナ禍での想いはもちろん、桜にまつわるエピソードや、「旅行に行きたい!」、「早く本当の春がきますように」など、夢や希望が書かれており、中には職員に向けたメッセージも

多く寄せられ、私たち自身、仕事の原動力に変えることができました。多くのメッセージをお寄せいただき本当にありがとうございます。

コロナ禍に負けずに地域の皆様が、この地で元気に過ごされ、それぞれの想いを未来に描きながら、マスクをはずしみんなで、楽しくワイワイガヤガヤできる日を待ち望んでいる、そんな想いに気付くことができました。

来年こそは、みんなで桜並木を手をつないで歩きたいです。

コロナ禍は続きますが、夢と希望を持ち続けて、地域と共に立ち向かい続けていきたいと思っています。

